

教育の

ひろば

VOL. 96

2025年(令和7年) 3月5日発行

品川区教育委員会

〒140-8715 品川区広町 2-1-36

☎ 3777-1111(代表)



▲区HPへのリンク

- 目次
- ▶教育委員コラム …… P1・2
 - ▶図書館システムの機能向上 …… P2
 - ▶伊藤小学校に特別支援学級を開設します …… P3
 - ▶不登校支援ポータルサイト ～ぶらっと～ を開設しました …… P3
 - ▶しながわ地域TEAM ACT(部活動地域移行) …… P4
 - ▶すまいるスクールとは …… P4



- ▶学校改築を推進しています …… P5
- ▶83運動にご協力ください …… P5
- ▶児童・生徒教育長表彰 …… P6
- ▶全国大会出場助成 …… P6
- ▶教育長杯 各スポーツ大会の結果 …… P6

教育委員 コラム

挑戦を支え、未来を創る品川教育

品川区教育委員会 教育委員 濱松 誠

2024年、日本の出生数が70

万人を下回り、私たちは超少子化の現実に直面しています。同時に、技術の進化や国際情勢の不安定化などにより、未来を予測することが難しいVUCA(※1)の時代です。このような状況の中で、教育は子どもたちの未来を支えるだけでなく、地域や社会全体の未来を形づくる力です。教育こそ、国の根幹です。

「挑戦の反対は失敗ではなく、挑戦をしないこと」。形は人それぞれですが、すべての子どもが自分の力を信じ、失敗を恐れずに挑戦し、自分らしい成長を実現できる場をつくるのが、教育の大切な役割だと考えています。

これまで区では、「学校選択制」「小学校教科担任制」「小中一貫教育」「市民科」などの取り組みを通じて、多様な学びの場を

整備してきました。これらの実績

は、子どもたち一人ひとりが自分に合った形で学び、成長できる環境を築いてきたと感じています。この基盤を一層発展させ、子どもたちの学びの可能性をさらに広げるためには、次に示すような新たな取り組みが必要です。

たとえば、「生成AI」を活用したICT教育。テクノロジーはこれまでの10年よりこれからの10年の方が進化していきます。学習を個別最適化、効率化し、教育の質を向上させるためには、生成AIを徹底的に活用することが必要です。

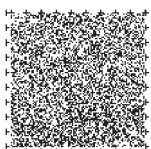
次に、市民科などを活用した「キャリア教育」。AIやデジタルだけでなく、地域・社会課題や親・先生以外の多様な大人に触れる機会を増やし、自分の未来を考え、選び取る力や人間力を養うこ

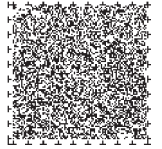
とが必要です。

また、学校現場の「人手不足」への対応。もう待ったなしの状態です。教職員の働き方改革や外部の力のさらなる活用などを通じて、現場を支える仕組みを整えることが必要です。

これらを実現するには、大人自身が柔軟な発想を持ち、外部活用や規制改革など、失敗を恐れず挑戦する姿勢が求められます。区の教育が、子どもたちの挑戦を支え、未来を築く力となるよう、共に歩んでいきたいと思っています。

※1 VUCA: Volatility (変動性)、Uncertainty (不確実性)、Complexity (複雑性)、Ambiguity (曖昧性) の頭文字をとった、将来予測が困難な状態を指す造語





教育委員 コラム

豊かなこころを育む

品川区教育委員会 教育委員

吉原 幸子



アメリカの海洋生物学者であり作家でもあったレイチェル・カーソンが姪の遺児の幼いロジャーのために書き残した「センス・オブ・ワンダー」という本があります。題名がとても心に響き、以前に読んだことがありました。レイチェル・カーソンは環境汚染問題について詳しく書き記した「沈黙の春」でも有名な作家です。

本の中で作者は「センス・オブ・ワンダー」について「神秘さや不思議さに目を見る感性」であると説明し驚きや感激、澄みきった洞察力や直観力が大人になるにつれて鈍ってしまったり、全く失ってしまうことから守ってくれる解毒剤になると述べています。

ワンダーという言葉はこの本の中では驚異・感嘆・好奇心などという意味合いに用いられていると思います。不思議に思う、疑問

に思う、思索する、知りたいと思うなどの用いられ方があります。子どもたちは物事をあまり知らない幼いときには初めて出会う様々なことに驚き感激し、その経験を通してやがてたくさんを知りたい、自分のものにしていきたい、という興味が湧いてきます。成長していく過程でこの「ワンダー」を持ち続けてほしいというのが私の願いです。

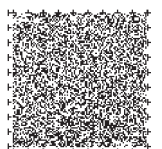
「ワンダー」の内容は勉強内容であったり友人関係であったり自然現象であったりと多岐にわたっていて良いと思います。年齢と共に内容も変化していきます。疑問に感じたり納得できないことに対して即決しようと思わずに心の片隅に置いておくことで、やがては解決の糸口が見つかると思います。

たくさんさんの「ワンダー」の思考経験を通して子どもたちは宝物を

蓄え心豊かに成長していくことができます。そして私たち大人はそのことに対してでき得る範囲で一緒に考え共感し、時には助言をして楽しく貴重な時間を共に過ごしていくことができれば素晴らしいと思います。



図書館システム の機能向上



令和7年1月に図書館サービス向上のため、システムの更新および機器の入れ替え作業を行いました。

新機能は、利用カードのスマートフォン対応と読書記録の希望者への提供です。

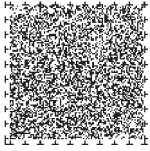
これまで資料の貸出時には、利用カードを持参いただいていたが、スマートフォンで利用カードのバーコードを表示することができるようになりました。

また、読書記録ができる外部サイト「読書メーター」と図書館システムを連携させることで、読んだ本や読みたい本等を登録することができるようになりました。

詳しい利用方法は、図書館ホームページでご確認ください。

区立図書館HP
へのリンク





伊藤小学校に特別支援学級(自閉症・情緒障害特別支援学級)を開設します

区では、特別な教育的ニーズのある児童・生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、一人ひとりの児童・生徒のもてる力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服するため、学級での観察・訪問や通級相談会等において専門家の診断、助言等を行っています。

また、特別支援学級の新設や既存施設の改修工事、支援員の配置等、特別支援学級、特別支援教室等における適切な指導および必要な支援の充実のため、環境整備や教材の充実を図っています。

令和6年度は、区立小学校で初めてとなる自閉症・情緒障害特別支援学級を宮前小学校に開設しました。基本的な学習・指導内容は通常の学級と同じですが、小集団での指導を通じて情緒の安定やコミュニケーション能力を育成する授業(自立活動)を行っています。

自立活動では、認知機能を高めるトレーニングや生活の振り返りを行い、自己理解・他者理解を深めたり、ソーシャルスキルや対処法を学んだりします。



令和8年4月には、伊藤小学校において、区立小学校で2校目となる自閉症・情緒障害特別支援学級を開設します。入級については、令和7年度の就学相談・転学相談で判断します。詳細は、今後実施する就学相談説明会や区のホームページなどでも案内します。

不登校支援ポータルサイト「ぷらっと」を開設しました

不登校児童・生徒および保護者の方が「どこに相談すればよいのだろう」「どのような支援策があるのだろう」と思ったときに、情報をまとめて分かりやすくお伝えするため、「不登校支援ポータルサイト「ぷらっと」を開設しました。

「ぷらっと」には、いつでも、どこでも気軽にぷらっと本サイトに立ち寄ってほしいという思いや、適切な支援につながる情報のプラットフォームになるようにという願いを込めています。

不登校ポータルサイトでは、左記のような情報を随時更新していきます。

- 不登校に関するコラム
 - 不登校支援情報(居場所や相談機関について)
 - 新着イベントや自学自習用教材、その他リンクなど
- また、ポータルサイトの要約版として「不登校支援ガイド」を開設しました。



「ぷらっと」を作成しました。

ポータルサイト上のデータもしくは、関係機関等に配布する冊子などをご確認ください。



ポータルサイトへのリンク▶

